

○ ^{よろんじょうあと}与論城跡

【所在地】大島郡与論町大字立長小字辺後地 3249 番地 1 外 21 筆

与論城跡は、標高 93m の琉球石灰岩の台地の縁辺部から断層崖下までの比高差 70 m の急斜面とその間の平坦面に立地する最北端の琉球式グスク跡。発掘調査の結果、沖縄においてもグスクの整備が始まる 14 世紀前半～中頃に台地部分の造成と石垣の構築が開始され、沖縄本島において三山と明との交易が活発化した時代から尚巴志しょうはしによる三山統一が行われる 14 世紀後半～15 世紀中頃に、崖下部分の造成や石垣や建物の構築が行われ、現在の城域が整備されたと考えられる。

そして、第二尚氏だいにしょうしによる中央集権化が進められ、琉球王国の勢力が拡大していく 15 世紀後半～16 世紀に、城としての機能が急激に低下し、薩摩による琉球侵攻が行われる 17 世紀以前に廃絶する。

与論城跡は、境界領域の城郭として、明、琉球、奄美、薩摩などによる東シナ海域の歴史的な状況の変化に連動し、築城され、変遷を遂げた城郭であったと言え、当時の南方社会の実態を知る上でも重要である。また、保存状態も良好で、築城技術には琉球の影響が強く認められるなど、琉球式グスクの築城技術の伝播を知る上でも重要である。

○ ^{つかざきこふんぐん}塚崎古墳群 (追加指定)

【所在地】鹿児島県肝属郡肝付町大字野崎字原 2028 番 1 外 4 筆

【指定年月日】史跡指定 昭和 20 年 2 月 22 日

追加指定 平成 25 年 10 月 17 日

追加指定 令和 2 年 3 月 10 日

追加指定 令和 6 年 2 月 21 日

鹿児島県の志布志湾沿岸に所在する古墳時代前期後葉頃から中期中葉まで営まれた古墳群。古墳文化の南限として重要。33 号墳や、地下式横穴墓が存在する可能性のある地区について、条件の整った部分を追加指定する。

今回答申される本県関係の文化財の所在地等

位置図



塚崎古墳群地形図



追加指定



塚崎古墳群の所在地

塚崎古墳群拡大図